

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773500562		
法人名	有限会社 あすか		
事業所名	グループホーム あすか		
所在地	大阪府南河内郡河南町大宝2丁目29-6		
自己評価作成日	平成30年7月23日	評価結果市町村受理日	平成30年11月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	平成30年10月18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑が多く、閑静な住宅街の中、落ち着いた環境で過ごしていただけます。四季折々の旬な食材を取り入れバランスの摂れた食事を手作りで提供させていただいてます。毎月のカレンダー作り、運動や体操、1人1人が特技を生かせるよう編み物、絵描きなど行っていただいております。年2回の日帰り温泉旅行などもたいへん好評です。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当初は他地区で開設されていたが、事情により大宝地区に移転されて、5年弱が経過している。この地区で建設される時、近隣住民の反対に遭ったが話し合いを重ね開設にこぎつけた経緯があり、地域との交流に励むべく、ホームでふれ合いカフェを開いて地域住民を招待し、在宅の認知症高齢者のケアの相談にのっている。こじんまりしたホームなので家庭的な雰囲気を感じられ、入居者についても認知度が進みADLも低下しつつあるが、部屋にこもらず終日リビング兼食堂で談笑し穏やかに過ごされている。食事も配食業者を使わず、利用者の好みに合わせた献立から食材の購入、調理まで全部ホームで行っている。開設して通年15年強が経過しているが、管理者(看護師)の交代は無く、スタッフもベテランが多くチームワークは良い。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関の見える所に貼り、職員一同、常に意識することで実践できているが、地域交流が難しくなっている	当ホームの運営理念として、「1. 地域の方々との交流 2. 笑顔 真心 楽しく 3. 散歩や植木(花)等を育てる楽しみ」と決め、パンフレットにも明記し、地域に根差し、利用者が穏やかで心豊かな生活が過ごせるように職員は励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っているが、行事など声をかけていただいても中々参加できない状況がある。	現大宝地区に移転して5年になるが、その時に地域住民から開設に対して強い反対があり、それがまだ尾を引いており、地域住民との交流には少し苦勞されている。それでも自治会に加入し、地域の催し事(大宝祭り、敬老会、防災訓練等)に参加し、当ホームとしてもふれあいカフェを開いて住民を招待し、交流することを目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設パンフレットを地域の方々に配り、住宅の入り口交差点に看板を設置、気軽に相談や見学をして頂けるようにしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容は記録、報告を行う事で各職員に伝達はできているが、ご意見などをすべて活かしてはいない	開催日については、奇数月と決め会議終了次第次回の開催日を決めている。行政からは町高齢福祉課や地域包括支援センターおよび介護相談員、地域からは区長や自治会長に出席して頂き、年6回開催している。意見交換は出来ているが、家族の参加は少ない。	地域密着型のグループホームでは、色々な課題や困りごとをホームから報告し、地域で解決する努力が必要である。それと最も必要な家族参加が少ない。多忙という理由で欠席されるが、意見や提案を聞く主要なメンバーであり、引き続き参加して頂く努力が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、入居状況報告を行うなどコミュニケーションをとっているが、協力関係は築けていない。積極的に会議などには参加している	ケア困難例や分かり難い事例については、町高齢介護課や地域包括支援センターと連携をとり、解決する努力をしている。年4回開かれる地域ケア会議にも参加し、情報を得たりグループホームの現状を報告しつつ工夫点等を話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠はせず見守りを大切にしている。身体拘束廃止の指針を全職員に周知、また定期に研修を行っている	厚労省発行の「身体拘束ゼロへの手引き」を参考にして、マニュアル「身体拘束廃止に関する指針」を作成し、研修を繰り返し現在は拘束例は無い。昼間は玄関は施錠せず見守りケアに徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修、職員の身体、精神状態を把握するため、こまめにコミュニケーションをとることで防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行うことで学ぶ機会をもち、必要とされるときは、支援できるよう協力体制をとっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を説明する上で、不安や疑問がないか尋ね、理解していただけるよう説明できている。改定等の際も理解していただけるよう説明できている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、来所時に会話を行うことで気軽に意見など言っていただける環境づくりを心掛けております。現在は特別に意見や要望はない。	意見箱は設置しているが殆ど意見は入らない。利用者からは、直接言ってこられたり、寄り添って何気ない会話から汲み取ったり、家族からお聞きしている。家族からは、原則利用料金の領収書については毎月ホームで受け取って頂くこととしており、その際色々不満ごとや建設的意見・提案をお聞きしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や常日頃、意見や提案を言いやすい環境づくりを心掛けている。話し合いの上、出来る限り反映できている。	ホーム自体こじんまりして家庭的で、職員もベテランが多く、何でも言い易い雰囲気を感じる。職員会議に管理者が出席し、意見や提案を聞いている。参考になる職員意見は運営に反映させる努力もしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう待遇面など見直しをおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社が費用負担することで研修にいけるよう配慮している。現状は中々いけない。勤務時間内で指導を行い育成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議、研修など積極的に参加し、交流できるよう配慮はしている。他施設に体験、見学なども行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の状態を把握し、要望等、明確にすることで安心してサービス利用できるように説明、情報共有、統一したサービス提供を行うことで関係づくりに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的に連絡を行うことで会話する機会を増やし、相談しやすい関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	会話を行う事で、必要な支援を見極め、提案、相談など対応はできている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アットホームな雰囲気のもと、それぞれの思いを尊重し、仲良く過ごせるよう日々接している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に来所して頂けるよう提案をおこない、ご家族で過ごしていただける時間を作っている。近況報告など必ず行う事で安心した関係を築けるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面談、散歩、外出など出来る限り、途切れないよう努めているが、年々、少なくなっている	入居したての時は、よく近所の友人や知人がお見舞いを兼ねてよく来訪してくれていたが、相手も高齢化し利用者の認知度も進んでくると訪問頻度も落ちてくる。それでも面会に来られたら2人で楽しい時間を過ごしてもらっている。馴染みの場所は、こだわりのお店や寺社があり、家族が連れて行ったりホームでお連れすることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	基本自由に過ごされているが、利用者様同士、交流できる時間をつくる事で、良い関係づくりに努められている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気軽に相談していただける体制はとっている。必要に応じて相談など行えている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの情報を各職員が把握し、ミーティングを行う事で共有を図れている。困難なことでも家族様、職員と話し合うことで、思いに添える様努めている	現在の思いや意向を聞くためには、利用者をよりよく知っておく必要があり、その方の人生歴や生活環境、趣味やこだわりごとを利用者情報やセンター方式のB-2シートにて把握し、それらを念頭に置き、現状の満足度や不満、提案等を聞きだしている。参考になるものはケアプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの情報を各職員が把握し、ミーティングを行う事で共有を図れている。来所時は、家族様からも情報をいただき共有を図れている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノート、日々の記録、申し送りにて各職員に漏れなく把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のミーティングによるカンファレンス、状況に応じて細かい話し合いを行なうことで、現状に即した介護計画を作成できている。	本人本位のケアプランを立てるためには、日々の介護記録や申し送りノートを職員が共有し、家族やかかりつけ医の意見も参考にし、計画作成担当者を中心に月1回カンファレンスを開いて立てている。モニタリングについては、ほぼ毎日のチェックがそれに当たり、ケアプランの変更や追加の検討もその都度行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録を明確に書くことで、情報の共有、気づきにて日々のケアの工夫を行い見直しなどに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせて出来る限り柔軟な対応、支援はできている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はできているが、必要時のみしか活用できていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、協力医療機関が定期的に往診にきている。診察に際、本人の希望、状況を伝える事で適切な医療を受けていただけている。必要場合は受診を行うなど対応している	かかりつけ医は入所時に本人・家族・ホーム間にて相談し決定している。1名以外現在では365日24時間対応可能な連携医療機関をかかりつけ医としている。内科系は月2回の往診・歯科は月1回の往診を受けている。特殊な科へはホームの支援にて受診され家族は安心されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の介護記録、観察、気づきなど看護師に伝える事で、その都度、適切な受診、看護を受けていただけている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報の提供、交換、必要に応じて協力できるような関係づくりをおこなえている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り対応の指針による職員対応、必要な状況に合わせて本人、家族様への説明、協力機関と共に最善の支援を行える体制をとっている	重度化や看取りに関して、入所時に「看取り対応指針書」に基づき説明し、同意を得ている。施設長は元看護師で、看取りも昨年2例、累計では数多くの看取りを経験し、職員の対応体制も整っている。重度化になった時には、家族・ドクター・ホーム間にてよく相談し、家族が一番望む方針を共有し、介護に当たっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状況にあわせて出来る限りの応急手当、初期対応ができるよう看護師に教わっている。また、協力医療機関へスムーズに連絡できるよう分かりやすい所に表示している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合訓練をおこなっている。災害時に避難場所として使っていただけるよう地域の方々に伝えている。また、別の避難場所などは契約時に家族様に伝えている	災害避難訓練は年2回(消防署立ち合いと自主訓練)を実施している。しかし、2回とも地域住民の参加は得られていない。夜間想定訓練は実施出来ない。地域との交流を深めて参加して頂く努力が必要である。備蓄に関しては本年の台風等により重要性を再確認し、備蓄品等を多めに対応している。	法定の訓練は出来ているが訓練への地域の方の参加、夜間を想定した訓練が出来ていない。地域の方の参加は運営推進会議の区長にお願いし、是非とも参加して頂く様に依頼することと夜間想定訓練は夜間のマニュアルを作成し訓練する事を期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員それぞれ、意識することで声掛けには注意している。	入居者を人生の先輩と考え、日頃より尊厳とプライドを損なわないようケアに当たっている。特にトイレへの誘導や風呂への声かけ等、ホーム内で接遇に関するマニュアルによる研修により注意し対応している。何か問題があれば職員間にて注意し合える関係が出来上がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思い、希望を表すことはあるも、全てが自己決定できるようにはできていない		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員それぞれわかっているも仕事に追われ、希望にそった支援ができないときがある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で出来る方は基本自由にしていたが、一方では職員の価値観で支援していることもある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季折々の素材を使った食事を提供することで季節を感じ楽しんでいただいている。一緒に準備などはほとんどできていない	食事に関しては一番重要事項として捉え、購入・メニュー・調理迄、食事専門職を1人採用し、美味しい食事を提供している。食材は施設の菜園(今年は熱波のためされていないが)の野菜や近隣の方の差し入れ野菜をメニューに加えたり、旬のものを提供している。職員も同じ食事を利用者と一緒に取り、和気あいあいとした時間を皆で楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりに合わせた食事形態での提供、日々の記録での食事、水分量のチェック、献立記録での栄養バランスを考えた食事提供にて支援をおこなっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様それぞれに合った口腔ケアをおこなっている。歯科往診の際には直接口腔ケアの指導もしていただいている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にて回数の管理は行っているがパターン把握は申し送りのみになっている。出来る限りトイレでの排泄ができるよう支援をおこなっている	排泄チェック表や利用者固有のサインで排泄パターンをほぼ把握している。時間少し前にそれとなく声かけしトイレへと誘導している。トイレでの排泄により便秘も改善しており喜ばれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すため規則正しい生活リズムを心掛け、水分、野菜、果物の提供、適度な運動を行っている。排泄表にて排便間隔の把握をおこない予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回決まった曜日での提供しかほとんど行っていないが、状況によって入浴日以外でも提供できるようにはしている。入浴は個別入浴にてゆっくりと入っていただいている	入浴は基本週2回だが体調・要望により柔軟に対応している。入浴時間は午後に設定し、リラックスしながら職員と楽しい会話をしながら入浴している。入浴には入浴剤や体調によりシャワー浴・清拭・足浴も対応し清潔を第一としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整え、パジャマに着替える、居室の温度調整など眠れる体制を作っている。その時々に応じて柔軟に対応できるよう申し送りなど状況把握に努め支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬は処方箋で確認、看護師による分包で朝、昼、夕、眠と飲み忘れ予防に努めている。頓服など症状に合わせ、主治医、看護師の指示の下行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全体でのレクリエーションや特技、趣味など個別で楽しまれたり、その時々にあわせた楽しみごとを提供できるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年2回の温泉旅行やお花見など季節にあわせた外出は行えている。日常的に散歩、日光浴を行い気分転換にも努めているも、地域の方々との関わりは減っている	ホーム周辺は住宅地で坂道の多い場所に立地している。日常はホーム周辺の散歩や駐車場での日光浴をし、季節感を味わってもらっている。遠出は年2回の和歌山方面の温泉旅行をし全員楽しみにしている。経費は施設が負担し行われている。その他桜見物等も有り季節感を味わっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の状態に応じて、お金の所持をいただいている、買い物など声掛けおこなうも、実際に行くことなく中々使う機会はない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙のやり取りができるよう支援は行っているが、現在される方はいない。施設から家族様に定期的に来ていただけるよう声掛けは行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の清潔、整理整頓を心掛け、いつでも気持ち良く使えるように配慮している。季節に応じて飾りつけなど工夫を行っている	新しい居間兼食堂は明るく、清潔感が有りゆったりとして、廻りには皆で作成したカレンダーやイベントの写真が飾られ、季節感を醸し出している。窓からの眺めも緑一杯でゆったりとした気分させてくれる。空間にソファがありコミュニケーションスペースとなり寛げる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブル、TV前のソファでそれぞれ談笑、レクなど楽しまれ、時間により別れて過ごされることで思い思いに過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、家族様と相談しながら、ある程度自由に物を置いてもらっている。手作りカレンダー、季節に合した花など飾ることで季節も感じていただいている	居室は施設のベットの他家庭よりの使い慣れたダンスや家族の写真等が持ち込まれ落ち着いて過ごせる場となっている。居室は日本間4部屋・洋間5部屋で利用者は好みの部屋を利用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差はなく、手すりを使う事で安全に移動できる。案内表示の使用はしていない		